

単元名 わたしたちの県のまちづくり～小田原漆器が語りかけるもの～（全11時間） 単元構想図

学びのストーリー（単元の流れ）

授業デザイン

評価規準／評価方法

1次

何の数字？①

- ◎伝統工芸の分布図から、伝統工芸品への関心を高める。
- ・全部で237だ！何を表しているんだろう？
- ・伝統工芸品の数なんだね。神奈川県伝統工芸品ってなんだろう？
- ・分かった、箱根寄木細工でしょ！（本当かな？）調べてみよう。

小田原漆器ってなんだろう？②（調べ）③（共有）

- ◎神奈川県の伝統工芸品に注目し、小田原漆器について調べる。
- ・小田原漆器って、「木」を主役とした漆器なんだね。小田原ならではの！
- ・400年以上歴史があるんだね。すごい！
- ・有名なはずだよ。みんな知っているのかな？

小田原漆器の知名度を調べたい！（国語）

- ※「世界にはこる和紙」の学習の一環として、教科横断的に取り組む。
- ◎伝統工芸品について、地域の人々が知っているか調査する。
- ・箱根寄木細工は知ってたけど、小田原漆器を知っている人は少なかったね。

2次

小田原漆器を知っている人が少ないのはどうして？④

- ◎小田原漆器の問題に気付き、その理由を考える。
- ・1982年では55人も、職人がいたのに、今では8人しかいなくなってる。
- ・後継者がいないと、続けられないよね。
- ・地味だから人気がないのかな。
- ・あんまり、売れなくなったからやめちゃったとかかもしれないね。（資料を読んで）
- ・やっぱり、お店の数が減っているね。後継者もいないって言っているよ。
- ・Oさんも、66歳だからあと何年できるかは分からないよね。
- ・プラスチック製品が増えていることも、小田原漆器が使われなくなった理由の一つなんだね。たしかに、便利だもんね。仕方ないのかな。

小田原漆器より、プラスチックのほうが便利！⑤

- ◎プラスチックと小田原漆器の特徴をおさえ、自分なりの考えをもつ。
- ・プラスチックは、「軽い」「手軽」「安い」という良さがあるね。
- ・小田原漆器は、「長持ちする」「木目が美しい」「熱に強い」という良さがあるね。

じゃあ、小田原漆器が使われなくなるのは仕方ない？⑥（本時）

- ◎自分なりの考えをもとに話し合い、考えを広げたり深めたりする。
- 【仕方ない】
- ・小田原漆器は長い歴史のある伝統工芸品だから、もったいない。
- ・使い続けないと、小田原漆器そのものがなくなってしまう。
- ・プラスチックの問題があるから、改めて小田原漆器を使った方がいいと思う。

- 【仕方ない】
- ・プラスチックの方が生活するうえで便利だから、仕方ないと思う。
- ・小田原漆器を残したいと思うけど、使っている人が少ないから仕方ないと思う。（Oさん資料を読んで）
- 「なくなったら二度と復活しない」と言っているから、なんとかして守りたい。どうしたらいいのかな。

3次

小田原漆器を守りたいけど、どうしたらいいの？⑦⑧⑨

- ◎小田原漆器を守るために、できることは何かを、各種資料をもとに考え、表現する。
- ・Sさんは、小田原漆器と箱根寄木細工のデザインを比べて、今時なものにした方がいいと言っているね。
- ・自分で体験に行くことも大切だって。

4次

わたしたちにできることって？⑩⑪

- ◎小田原漆器を通して、学んだことをまとめたり、共有したりする。
- ・小田原漆器は、小田原の伝統的な工芸品だから、だれかに任せるのではなく、みんなで協力して守っていかなければいけない。
- ・守っていくために、〇〇したい。

生活経験
とのズレ

教材と
教材のズレ

教材と
児童のズレ

児童間の価値観のズレ

教材により
葛藤場面を
引き出す。

響き合う

わたしたちの小田原などの資料を見て気付いたことを、全体で共有し、聞き合えるあたたかい雰囲気づくりをする。児童の気付きを大切に、価値付けていく。

自己調整

・その日の学びの振り返り、そこから自分なりに疑問をもち、自分たちで学習問題をつくれるようにする。
・業間学習を大切にして、自分で調べてきた児童を価値付けていき、良さを広げていけるようにする。

手立てや概念

教師からの資料任せになるのではなく、自分たちで調べていくための声掛けを大切にしていこう。

響き合う

児童が調べた資料を授業に位置づけ、児童間で気付いたことを話す対話的な時間を設けることで考えの幅を広げられるようにする。

自己調整

立場を明確にし、自分の考えを支える根拠をもてるようにする。

手立てや概念

プラスチック容器と小田原漆器を対比させていき、両方の特徴を理解できるようにする。
そのうえで、「自分だったら」という思いを大切に話し合えるようにする。

響き合う

・エレベータートークを活用し、児童間で意見の共有ができるようにする。
・相手の意見を短くノートに書き、異見に対しても受け入れながら考えをもてるようにする。

手立てや概念

地場産業振興課などの市として保護する取り組みがあることなどを出していき、多角的に小田原漆器の問題について考えられるようにする。

手立てや概念

人任せになるのではなく、市のNさん、消費者のSさんや、生産者のOさんの立場をもとに、自分たちでできることに取り組み、「小田原市民」としての意識を醸成させるとともに、自分たちでもできることがあるという自己有用感をもてるようにする。

高め合う

自分たちの見出したことのない問いについて、自分事として考えていく。そして、友達の言葉を取り入れながら、自分の考えを再検討し、納得解をもてるようにする。

【知識・技能】

- ・自分たちの住んでいる地域では、小田原漆器という伝統工芸品があることを理解している。
- ・地図帳や各種資料を活用し、小田原漆器について調べることができる。
- ・小田原では、職人など人々が努力し、特色あるまちづくりや、観光などの産業の発展に努めていることを理解している。

【思考・表現・判断】

- ・小田原漆器という伝統工芸の歴史的背景や、人々の協力関係に着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考えて、表現することができる。

【知識・技能】

- ・伝統工芸品として認められている小田原漆器が、後継者不足で、このままだと失われる問題があることを理解している。

【思考・判断・技能】

- ・小田原漆器が衰退する要因として、プラスチックなどの「軽い・安い・手入れの手間が少ない」などの利便性に優れていることに着目し、自分ならどちらを使いたいのか考え、表現することができる。

【学びに向かう力・人間性】

- ・小田原漆器を保護していく問題を自分事として捉え、当事者意識をもって問題解決に向かって考えようとしている。

【思考・判断・表現】

- ・小田原漆器という伝統工芸を保護していくために、大切なことは何か、各種資料を基に考え、表現することができる。

【思考・判断・表現】

- ・小田原漆器を守っていくために自分が協力してできることを考えたり、学習したことの中から選択・判断したりして、表現することができる。

願う子どもの姿

- ・自らが学びの主役であることを自覚し、事実から問いを見出し、対話的な学びを通してその解決に向けて迫っていく姿。
- ・情報を鵜呑みにするのではなく、「本当かな？」という考え（批判的な思考）をもち、自分なりに調べて確かめようとする姿。
- ・Oさんの立場を通して、小田原漆器という小田原の伝統的な価値を残していくために自分たちができることは何かを、自分事として考えていく姿。